

○町田玲子

(京都府立大)

<目的>前報(*)において個人的空間の所有の実態、および必要性について報告した。本報では個人的空間を必要とする主婦層(個人的空間を持っている主婦の約9割、持っていない主婦の約6割)の個人的空間に対する希望像について明らかにすることを目的とする。主婦が個人的空間を確保することにより、本人の社会的自立はもとより家族の生活的自立の育成についてもより可能になるものと思われる。本研究は、これからの家族に相応しい住宅像を考えるための一資料とするものである。

<方法>京都府立大学生活科学分野の卒業生(1953~1993年)を主とする主婦、計1526名を調査対象とし郵送によるアンケート調査を実施(アンケート用紙の有効回収数807、回収率は52.9%)。その際自分が希望する個人的空間について図示もしくは文章で自由記入することを依頼、記入のあった例について検討する。調査年月1994年10月。

<結果>調査対象者の概要は前報と同じ。

①「他室から独立した個室」を理想の個人的空間とする主婦は、個人的空間を持つ主婦の5割弱、個人的空間を持たない主婦の4割弱であった。②個人的空間の場所は、KやLとの位置関係を重視している例がとくに多いが、個人的空間をすでに持っている主婦の場合、「玄関の近く」「寝室の一角」のように家事労働領域から離れた位置を望む例が比較的多い。③KやLとの位置関係は、それぞれの中の一隅ではなく、また近くに離れるでもなく、隣接希望が比較的高率である。④置きたいものとして、机、本棚、収納棚がとくに多い。

* (社)日本家政学会第47回大会研究発表